

福島県育成りんどう 「天の川」栽培の手引き



令和8年6月改訂
福島県花き振興協議会
福島県園芸課
福島県農業総合センター

福島県育成りんどう 「天の川」栽培の手引き 目次

- 1 りんどう「天の川」の品種特性……………1ページ
 - (1) 形態的特徴
 - (2) 開花期の目安
 - (3) 収量
 - (4) 切り前時期
 - (5) 日持ち期間
 - (6) 開花特性
- 2 りんどう「天の川」の市場評価……………4ページ
- 3 栽培に向けた準備……………5ページ
 - (1) りんどう栽培に適した環境
 - (2) 必要な資材及び機械(例)
 - (3) 栽培スケジュール
- 4 りんどう「天の川」栽培のポイント……………6ページ
 - (1) 苗の購入
 - (2) 排水性の改良
 - (3) 施肥
 - (4) 定植
 - (5) ジベレリン処理
 - (6) 支柱とフラワーネットの設置
 - (7) 芽整理
 - (8) 病虫害防除
 - (9) 収穫
 - (10) 出荷調整
 - (11) 残茎整理
 - (12) 株の保護
 - (13) 春肥

この手引きに記載されている内容は福島県農業振興課及び福島県農業総合センターの調査結果を参考に記載しております。なお、今後の試験結果や生産者からの御意見を踏まえて改訂することがあります。

1 りんどう「天の川」の品種特性

(1) 形態的特徴

ア 花の形状

鮮やかな青紫色で、花卉（花冠裂片）には白色の小さな斑点が多数入ります。

ササリンドウ系※であるため、花びらは外側に開きます。「天の川」は気温が低くなっても花びらが閉じにくいという特徴を示します。

※りんどうは花卉が展開しにくいエゾリンドウ系と花卉が展開するササリンドウ系に大別されます。

イ 草姿

ほ場における草丈は70cm～90cm程度で、茎数は20本程度発生し、下枝が多く発生します。

栄養繁殖の品種であるため、生育の揃いが良いです。



写真1 「天の川」の花の拡大



写真2 「天の川」のほ場での生育状況



写真3 「天の川」の切り花

(2) 開花期の目安

浜通りや中通りの平坦部では9月上中旬に開花します。阿武隈高地や南会津地域などでは9月中旬から10月上旬の開花時期となります。

	9月						10月		
	1 半旬	2 半旬	3 半旬	4 半旬	5 半旬	6 半旬	1 半旬	2 半旬	3 半旬
広野町 (折木 100m)	←→								
郡山市 (多田野 300m)		←→							
玉川村 (南須釜 500m)				←→					
南会津町 (長野 500m)				←→					
南会津町 (小立岩 650m)					←→				

図1 「天の川」の開花期の目安(2017年)

※県内産地における「天の川」の開花時期。カッコ内は標高。

(3) 収量

定植3年目株における1株当たりの収穫本数は3.0本～4.5本程度で、10a当たり18,000～27,000本の収量が見込まれます。出荷規格は70cm4段以上が多くなる傾向にあります。

表1 現地試験における定植3年目株の収量調査結果(2017年)

調査場所	品種名	出荷規格別割合(%)				1株当たり 本数(本)	10a当たり 本数(本)
		80cm 5段	70cm 4段	60cm 3段	50cm 2段		
南会津町(小立岩)	天の川	11.3	51.5	27.8	9.3	3.0	18,190
	尾瀬の大将	69.6	21.4	9.1	0	4.0	23,810
只見町(塩ノ岐)	天の川	36.5	35.1	15.0	13.4	4.5	27,190
	尾瀬の大将	60.0	20.5	15.1	4.4	5.8	34,590

2万本/10a収穫し、58円/本(令和4年東京都中央卸売市場統計のりんどうの年平均価格)とした場合、1,160千円の粗収益が見込まれます。

(4) 切り前時期

観賞適期を「頂花、2段目ともに2輪開花」とした場合、切り前時期は「頂花、2段目ともに1輪開花」した時期です。

表2 「天の川」における切り前の違いによる観賞適期となった割合(2020年)

切り前		観賞適期※となった 割合(%)
頂花	2段目	
蕾	蕾	54.5
1輪開花	蕾	59.1
1輪開花	1輪開花	95.5
1輪開花	2輪開花	90.9



写真4 「天の川」の適切な切り前

※観賞適期:頂花2輪開花+2段目2輪開花

※前処理剤:クリザール-K20C、生け水:蒸留水

「天の川」は花が閉じにくいいため花の内部に雨水がたまりやすいことから、できるだけ切り遅れないように注意してください。

(5) 日持ち期間

通常の管理における頂花開花数は2.6～4.9個、日持ち期間は約10日程度です。

糖分と抗菌剤が含まれた後処理剤を使用することで頂花開花数、日持ち期間とも増加します。

表3 後処理剤が「天の川」の開花、日持ちに及ぼす影響(2020年)

切り前	頂花開花数(数)		日持ち期間※(日)	
	蒸留水	後処理剤	蒸留水	後処理剤
頂花1輪開花+2段目1輪開花	3.3	7.4	9.9	23.0
頂花1輪開花+2段目2輪開花	4.2	7.4	10.3	19.6
頂花2輪開花+2段目2輪開花	4.9	9.3	10.0	24.4

※日持ち期間:観賞適期～花、葉の50%が萎凋、褐変するまで

※前処理剤:クリザールK-20C、後処理剤:美咲

(6) 開花特性

天の川は低温条件でも花の開きが良く、温度が下がった場合においても花が閉じにくいという特徴を持ちます。

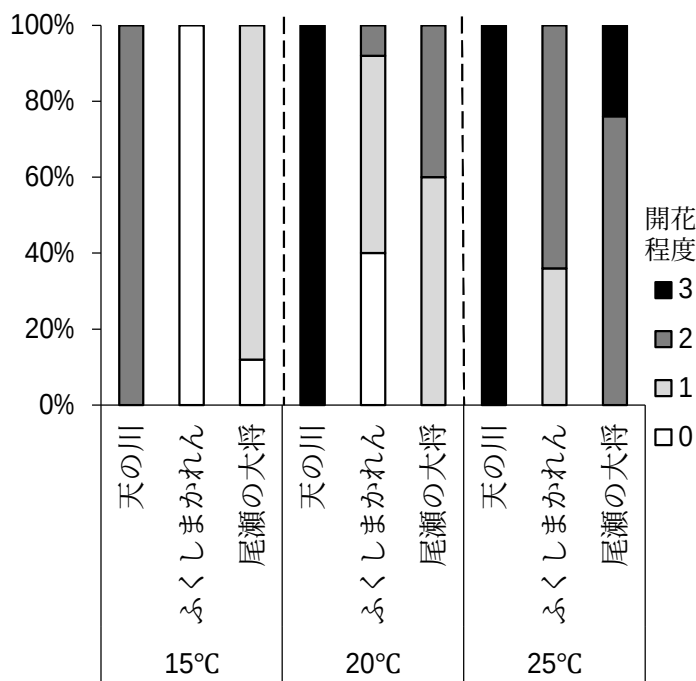
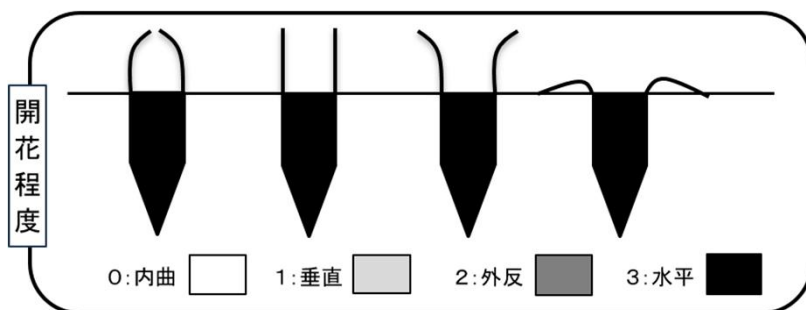


図2 「天の川」の各温度条件下における開花程度 (2015年)

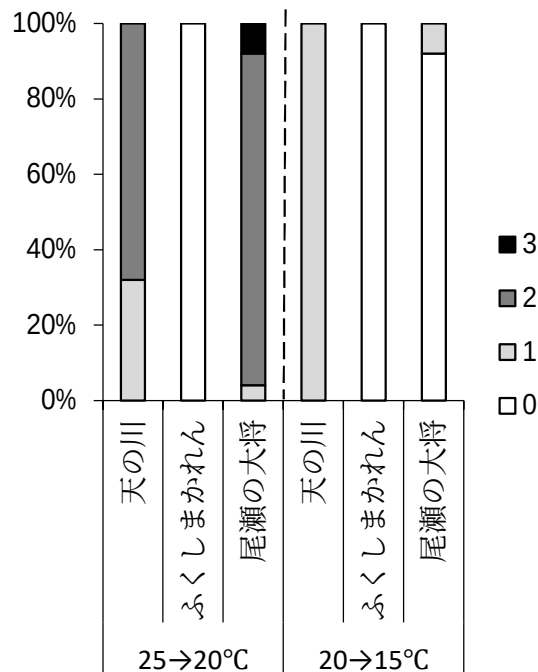


図3 「天の川」の降温時の開花程度 (2015年)

いずれの温度条件でも花が閉じにくいことから、フラワーアレンジメントや花束など様々な用途に活用でき、彼岸時期以外にも需要が期待されます。

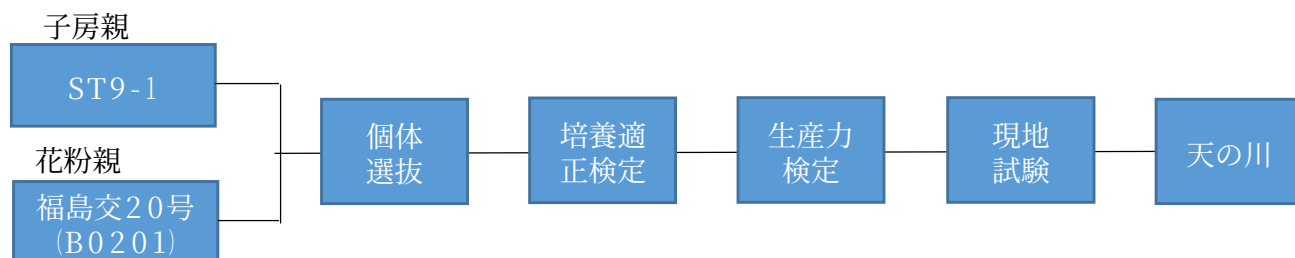
Topics 福島県におけるりんどうの品種開発と「天の川」の開発

福島県は、平成10年に「ふくしまかれん」(平成15年品種登録)を品種登録出願して以降、「ふくしまさやか」、「ふくしまみやび」、「ふくしましおん」、「ふくしまほのか」、「ふくしま凜夏」まで6品種を開発しました。「天の川」は福島県が育成したりんどうとしては、7つ目の品種となります。

「天の川」はササリンドウ系統の「ST9-1」を母、ササリンドウ系統の「福島交20号(B0201)」を父として2008年に交配し、育成された栄養系品種です。

2015年「福島栄22号」を付与し、県内5市町村で現地試験を実施しました。

「福島栄22号」の名称で2021年3月に品種登録を出願し、名称を「天の川」としました。



2 りんどう「天の川」の市場評価

関東圏の花き取扱業者約30社（卸、仲卸、専門店等）に対し、「天の川」の想起される使用用途を聞いたところ、以下のような回答が得られました。

- ・青系又は青紫系の商材として販売が見込まれる。
- ・仏花としての利用が見込まれるほか、家庭用、贈答用としての評価が高い。
- ・実際に商品として利用する場合には花束やアレンジメントに適した品種である。



写真5 「天の川」を使用したアレンジメント

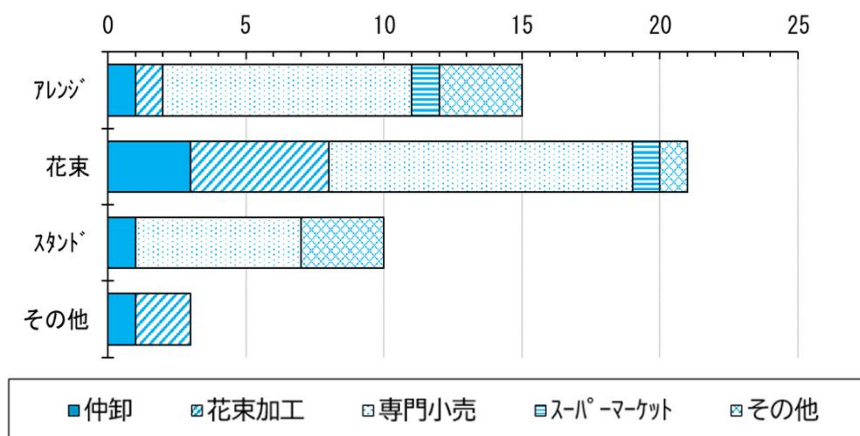
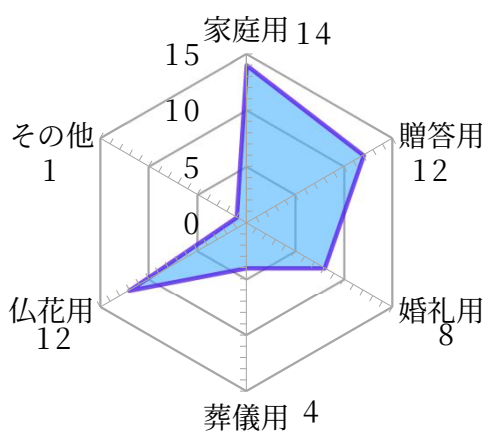


図4 花き取扱業者における「天の川」の使用用途に関するアンケート結果（2019年）
※図中の数値は花き取扱業者30社へのアンケートによる集計値（複数回答有）

出荷先と調整することで、彼岸需要期以外でも、一定の価格で取引が期待できます。

3 栽培に向けた準備

(1) りんどう栽培に適した環境

ア ほ場条件

りんどうは極端な乾燥と過湿を嫌います。かん水のための水源等を有したほ場を選定し、排水不良な湿田等には作付をしないようにしましょう。

また、りんどうは酸性土壌を好みます。定植前年までに深耕と有機物の施用等も組み入れて、土づくりを行いましょう。

イ 気候条件

りんどうは生育適温が20℃前後と冷涼な気候を好むことから、高冷地においては品質の高いりんどうの生産が期待できます。

「天の川」は比較的高温に強い品種であり、県内平坦部でも栽培できますが、著しい高温が続いた場合、着色不良花や開花遅延が発生する可能性があります。

この場合には、遮光幕を設置するなど、高温対策を行いましょう。



写真6 遮光幕による高温対策

【注意事項】

りんどうは連作を嫌うので、改植する際には同一のほ場を避ける必要があります。

(2) 必要な資材及び機械(例)

ア 主な資材

資材	10a当たりの 使用量
〇型支柱(高さ180cm×幅75cm)	900本
フラワーネット(15cm角×5目)	400m
グラウンドシート(75cm×100m)	1,000m
Uピン(30cm)	1,000本
支柱クロスバンド	1,000個
白黒ダブルマルチ (0.03×135×200m)	4本

イ 機械

機械名
軽トラック
動力噴霧器
乗用トラクタ(ロー刈付)
管理機+成形機

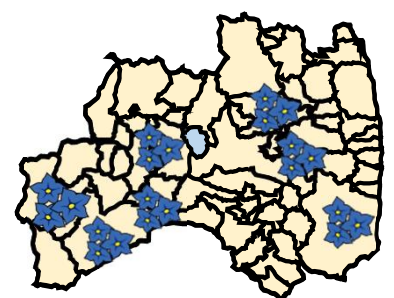
ウ その他

資材
肥料(元肥、春肥等)
農薬
水揚げ用バケツ
出荷調製用のハサミ
出荷用段ボール 等

Topics 福島県のりんどう生産

令和6年における福島県のりんどうの栽培面積は2,210aで岩手県、秋田県、山形県に次ぐ国内第4位となっています。
(令和6年度農林水産省作物統計より)

県内では南会津地域で多く栽培されていますが、この他にも安達地域、田村地域、いわき地域等、県内各地にりんどうの産地が存在します。



(3) 栽培スケジュール

栽培スケジュールは下の表のとおりです。生産する地域によって作業スケジュールは若干異なります。

表4 「天の川」の栽培スケジュール (例)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
定植 前年						苗の注文		ほ場 準備
定植 1年目	ほ場 準備	定植	栽培管理 (除草・病虫害防除等)				残茎 整理	株の 保護
定植 2年目		栽培管理 (除草・病虫害防除等)				一部、収穫		株の 保護
定植 3～6年目		栽培管理 (除草・病虫害防除等)				収穫 ※改植に向けた 検討		株の 保護

4 りんどう「天の川」栽培のポイント

一般的な栽培管理は晩生りんどうに準じて行ってください。「天の川」の栽培におけるポイントは以下のとおりです。

(1) 苗の購入

定植本数は600本/aが目安です。「天の川」は開花期が7～10日程度と集中しやすいため、無理のない栽培計画を立ててください。

(2) 排水性の改良

「天の川」は水はけ良好な土壌条件を好むため、排水対策を徹底してください。

ア 明きょ (ほ場の周囲4辺に深さ30cm程度) を掘り、排水口へつなげます。

イ 弾丸暗きょの施工をおすすめします。明きょにつなげると、排水効果が高まります。



写真7 りんどうほ場に設置した明きょ

(3) 施肥

一般的なりんどうの施肥基準に準じて行ってください。

【基肥の施用例 (10a当たり)】

基 肥	施用量 (kg)	成分量(kg/10a)			備考
		N-P-K	Ca	Mg	
配合化成肥料	100	8-8-8			資材例:花き専用888
苦土重焼燐	20	7		1	
硫酸カルシウム	100		20		資材例:畑のカルシウム
硫酸マグネシウム	40			10	
合 計		8-15-8	20	11	

(4) 定植

遅霜のおそれなくなった5月下旬～6月上旬に定植し、その後1か月間は乾燥に注意し、適宜かん水を行ってください。

組織培養で育苗した「天の川」は、一般的な種子から育苗する品種と比べ、ややロゼット状の形態を呈しますが、生育に問題はありません。



写真8 「天の川」の苗

(5) ジベレリン処理

生育促進のため、定植直前又は定植1～5週間後にジベレリン100ppm水溶液を苗に1回散布（噴霧）します。

(6) 支柱とフラワーネットの設置

ア 高さ180cm以上×幅75cmの「H型支柱」
1.5m間隔で立てます。

イ 15cm角×5目のネットを2～3段、設置します。

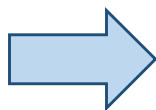
「天の川」は生育が旺盛であるため、ネットの両脇をマイカー線などで補強することをお勧めします。

(7) 芽整理

草丈20cm前後の時期に、細い茎や極端に太い茎を折り取り、太く生育が揃った茎を1株当たり10本程度残します。



芽整理前



芽整理後

写真9 芽整理例

「天の川」は側枝が発生しやすい品種であるため、早い時期に芽整理を行うと過繁茂となり、病気の発生源や作業効率の低下につながる恐れがあります。

(8) 病虫害防除

「天の川」は、病虫害抵抗性を特に付与していないため、他の品種同様、7～10日間隔で防除を行いましょう。

(9) 収穫

頂花が色付いてきたら、ウイルス等の汁液伝染を避けるため、手で折り取り収穫します。草丈110cm未満の場合は茎を1株当たり1～2本残して地際部から収穫します。草丈が110cm以上の場合は、地上部30cmを残して株のすべての茎を収穫します。

(10) 出荷調製

一般的なりんどうに準じた調製をします。

「天の川」は花の中に水が入っている場合があるので、
結束前に水気を取るようにしてください。



写真10 出荷調製作業

(11) 残茎整理

収穫終了後、ほ場にある残茎は地際10～15cmから

上の残茎を折り取り、ほ場外に持ち出し、土中に埋める等の処分を行いましょう。

(12) 株の保護

幼株の凍み上がりや芽の乾燥を防ぐため、冬期間は
株上に堆肥や稲わらの束で被覆しましょう。

稲わらの束は翌春の萌芽前に片づけます。

なお、積雪量が多い地域では当該作業は必要ありません。



写真11 株の保護

(13) 春肥

定植した翌年以降は、春肥を施用しましょう。「天の川」は、草丈が伸びにくい特性があるため、萌芽期に多肥(N成分で標準施肥0.6kg/a+即効性肥料0.4kg/a)とすることで切り花長が長くなり、上位の出荷規格別割合の増加が期待できます。

表5 「天の川」の施肥量及び施肥時期が切り花品質に及ぼす影響(2025年)

春肥量		切り花形質		出荷規格 ¹⁾ 別割合(%)				
		切り花長 (cm)	花段数 (段)	80cm	70cm	60cm	50cm	外
萌芽期標準施肥	N成分 0.6kg/a ²⁾	64.2	3.0	0.0	9.8	55.2	30.5	4.6
萌芽期多肥	N成分 0.6kg/a ²⁾ + 0.4kg/a ³⁾	69.8	3.6	2.7	38.0	43.9	13.9	1.6
側芽発生期標準施肥	N成分 0.6kg/a ²⁾	59.3	2.8	0.0	1.2	35.1	49.4	14.3

1) 出荷規格: 80cm(花段数5段以上)、70cm(4段以上)、60cm(3段以上)、50cm(2段以上)に区分した。

なお、収穫は切り花可能な茎を地際から全て採花し、茎径2.0mm以下となるものは除外して調査した。

2) 標準施肥は「CDUタマゴ化成S555」を施用した。

3) 即効性肥料は「くみあい尿素入り窒素加里化成2号」を施用した。

注1) 令和7年度の萌芽期は3/21、側芽発生期は5/19に確認され、その日に春肥を施用した。

露地栽培では、雪解け及び萌芽を確認してから施用すること。



マルチに穴を開ける



穴に遮光資材または藁を敷く



上から肥料を施用する

写真12 追肥作業例



【監修】福島県農林水産部
【編集・発行】福島県花き振興協議会